

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	マーケティング実践 I		（ NGB24A ）
講義名（コード）	マーケティング実践 I A		（ NGB24AA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	1
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	マーケティング理論を理解し、各フレームワークを使えるようにする
全体の内容と概要	ワークショップを主体とし、地域に密着した企業や店舗のケーススタディを取り上げる
授業時間外の学修	日々の企業ニュースに対してアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	企業におけるマーケティングの重要性を理解できる	マーケティングとはなにか。意義と役割について理解する
2	販売とマーケティングの違いを理解できる	販売からマーケティングの概念に移行していきっている、その背景を解く
3	ニーズとウォンツの違いを理解できる	顧客の潜在的なニーズを考える。人間が感じる欠乏状態と具体的な欲求とは
4	顧客満足度とマーケティングの関係を理解できる	企業活動の目的のひとつが顧客創造であり、顧客満足の意義を考察する
5	ターゲティングについて理解できる	セグメンテーション、ターゲット、ポジショニングを使ってみる
6	企業の内外環境分析を理解できる	SWOT分析を使って企業の「強み」と「弱み」を考察する
7	企業の内外環境分析を理解できる	SWOT分析を使って企業の「機会」と「脅威」を考察する
8	SWOT分析からマーケティング戦略を導くことができる	SWOT分析からマーケティング戦略を練ってみる
9	マーケティング・ミックスを設定することができる	マーケティング4Pから各戦術を練る
10	地域密着事例を通してマーケティングの理解を深めることができる	地域密着型企業のマーケティングを考察する
11	マーケティング・プロセスの仕組みを理解できる	顧客満足獲得に向けたマーケティング活動の流れをつくる
12	マーケティング・プロセスを設計できるようになる①	ワークショップ
13	マーケティング・プロセスを設計できるようになる②	"
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	経営戦略 I		（ NGB24C ）
講義名（コード）	経営戦略 I A		（ NGB24CA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	企業コンサルタント実務経験、(株)経営教育研究所 代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	経営戦略の意義を理解し、様々なフレームワークを使えるようにする
全体の内容と概要	戦略的思考をしっかりと身に付け、ビジネス視野を広げ 理解を深めるためにケーススタディやグループワークの時間を設ける
授業時間外の学修	日々の企業ニュースに対してアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	経営戦略で学ぶことを理解できる	ガイダンス
2	企業のピラミッド構造を理解できる	企業における経営戦略の立ち位置とは
3	ミッションと経営戦略のつながりを理解できる	企業の方針を決める経営戦略とは。またミッションとのつながりは？
4	企業戦略について事例を通して理解できる	アップルはいかにして成長してきたのか
5	企業戦略について事例を通して理解できる	トヨタはいかにして成長してきたのか
6	企業戦略について事例を通して理解できる	自国の成長企業を取り上げて考察してみる
7	全社戦略、企業ドメインについて理解ができる	企業のドメインとは。企業ドメインを3つの観点から考えてみる
8	事業戦略について理解ができる	コトラーの競争地位戦略を学ぶ
9	機能別戦略について理解ができる	マーケティングや営業、組織、財務など企業に必要な戦略を学ぶ
10	いろいろな戦略があることを理解する	ブルーオーシャン戦略、ロングテール戦略、フリー戦略などを知る
11	同上	ケーススタディ
12	デジタル戦略について理解ができる	X-Techを学び、企業のDX化を調査しレポートをまとめる
13	同上	ワークショップ
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	担当教員は経営コンサルタントの実務経験を活かし、経営戦略・人事労務管理・リーダーシップ論などの経営基本知識をケーススタディを用いて指導を行う

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	プロジェクト演習Ⅲ		（ NGB24M ）
講義名（コード）	プロジェクト演習ⅢA		（ NGB24MA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	1
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	①プロジェクト学習を通して、課題解決の流れを理解し解決案を導けるようにする ②自分プロジェクトをアウトプットする
全体の内容と概要	人生やビジネスにおける課題発見と課題解決するための方法を学ぶ
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	プロジェクト演習の狙いと流れ
2	目的と目標の違いが理解できる	目的と目標の違いとは。自分の人生に当てはめて考えてみる
3	ライフキャリアにおいて理解ができる	5 上のライフステージと 8 つのライフロールを考える
4	同上	自分のライフキャリアを作成する
5	ロジックツリーを理解できる	課題の解決方法を学ぶ
6	同上	ロジックツリーを使い、自分の課題を考えてみる
7	自分の強みを知ることができる	USPとはなにか。自分のUPSを見つける
8	メンターについて理解できる	メンターを知る、自分のメンターを探してみる
9	KGI、KSF、KPIを理解できる	KGI、KSF、KPIを理解し、自分の人生のKSFを探してみる
10	KSFを見つけることができる	ワークショップ
11	自分のプロジェクトを立案できる	自分プロジェクトの立案し、プレゼンテーションにまとめる
12	同上	ワークショップ
13	同上	ワークショップ
14	まとめ	発表
15	まとめ	発表

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	経済学 I		（ NGB24E ）
講義名（コード）	経済学 I D		（ NGB24ED ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	高橋 亨	時間数	30
成績評価教員	高橋 亨	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	経済が日常生活や企業経営に及ぼす影響を事例及び実践ワークを通して学ぶことで、社会人としての常識となる経済学を修得する。
全体の内容と概要	「日常生活」「企業活動」「市場経済」「経済成長」「金融」「グローバル経済」の分野における経済理論、また現在の日本国内や海外の経済情勢を理解する。
授業時間外の学修	実践ワークを通じて経済活動を体験する
履修上の注意事項等	授業での言語は原則日本語で行うため、ヒアリングできる程度の日本語語学力が必要。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	出席率70%以上で期末試験受験者を対象とし、授業内実践ワークへの参加意欲も評価対象とする。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	経済に対する基本的な考えを理解することが出来る	▪ オリエンテーション（授業の進め方、経済学の範囲、学習概要） ・身の回りにある経済学＜効率、効用、選好、限界効用逓減の法則＞
2	日常生活における経済学を理解することが出来る	・身の回りにある経済学 ＜希少性、機会費用、代替財と補完財、需要曲線と供給曲線＞
3	日常生活における経済学を理解することが出来る	・身の回りにある経済学 ＜上級財・下級財、所得効果、ギッフェン財・ヴェブレン財、消費余剰＞
4	日常生活における経済学を理解することが出来る	〔実践ワーク〕 物の値段を決める
5	企業にまつわる経済学を理解することが出来る	・企業にまつわる経済学 ＜生産関数、費用曲線、限界収入・限界費用、競争市場＞
6	企業にまつわる経済学を理解することが出来る	・企業にまつわる経済学 ＜独占企業、価格調整、規模の経済、プライスメーカー＞
7	企業にまつわる経済学を理解することが出来る	・企業にまつわる経済学 ＜ゲーム理論・ナッシュ均衡、囚人のジレンマ、フォーク定理、カルテル＞
8	企業にまつわる経済学を理解することが出来る	〔実践ワーク〕 原価と利益を計算する
9	市場にまつわる経済学を理解することが出来る	・市場にまつわる経済学 ＜神の見えざる手、パレート最適、市場の失敗＞
10	市場にまつわる経済学を理解することが出来る	・市場にまつわる経済学 ＜コースの定理、公共財、市場経済、GDP、GNP＞
11	市場にまつわる経済学を理解することが出来る	・市場にまつわる経済学 ＜世界各国GDP、キャピタルゲイン、物価指数＞
12	市場にまつわる経済学を理解することが出来る	・市場にまつわる経済学 ＜投資、消費、ケインズ経済学、財政政策＞
13	市場にまつわる経済学を理解することが出来る	・市場にまつわる経済学 ＜乗数効果、完全失業率、財政赤字、プライマリーバランス＞
14	期末テスト	・記述式テストの実施
15	まとめと解説	テスト内容に関するフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「経済学見るだけノート」木暮太一著・宝島社
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	貿易商務論 I		（ NGB24G ）
講義名（コード）	貿易商務論 I A		（ NGB24GA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	田中 清夫	時間数	30
成績評価教員	田中 清夫	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	海外との取引を行う会社で、輸出入を担当する為に必要な基本的な知識を身につける
全体の内容と概要	国内の売買取引を基本にして、国境を跨った海外との売り買いの取引で、気をつけることを身につけ、実際の輸出入取引を理解し、個人でも実践できることを目指す。実務検定を目指す
授業時間外の学修	特に貿易用語について、理解し使えるように復習をすること
履修上の注意事項等	授業では、グループ学習も行うので、積極的な参加が必要

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	国内の商取引の仕組みを理解し説明できる	オリエンテーションとして、授業の進め方を説明。国内の商取引手続きについてグループで検討し発表する。
2	国内売買取引契約を理解し説明できる	国内売買取引契約について説明する。グループで、どんなリスクがあるか検討し発表する。
3	貿易取引と国内取引の違いを理解し説明できる	貿易取引契約について説明する。グループで、国内取引と貿易取引の違いを検討し発表する。
4	貿易取引の関係者を説明できる	貿易取引の関係者を説明する。グループで国内取引の関係者と比較して貿易取引で特に必要になる関係者と役割を検討し発表する。
5	貿易取引の流れを説明できる	貿易取引の全体的な流れを説明する。グループでリスクを検討し、発表する。
6	貿易取引の用語を説明できる	貿易取引の用語を説明する。グループで、よく理解できない用語を選んで、その内容を調べて説明する。
7	貿易取引の用語を説明できる	グループで理解できない用語を選んで、その内容を調べて説明する。
8	輸出取引の手続きを説明できる	輸出取引について説明する。グループで、輸出に必要な書類を検討して、どんな書類があるか発表する
9	輸入取引の手続きを説明できる	輸入取引について説明する。グループで、輸入に必要な書類を検討して、どんな書類があるか発表する
10	ものの移動、書類の移動、金の移動があることを説明できる	貿易取引を「もの」「書類」「カネ」に着目して説明する。グループで、流れを図解して発表する。
11	信用状の仕組みを説明できる	信用状の仕組みを説明する。輸出グループ、輸入グループに別れて、信用状を作って発表する
12	信用状の記載事項を説明できる	信用状の仕組みを説明する。輸出グループ、輸入グループに別れて、信用状を作って発表する
13	テスト前の総復習	貿易取引の要点と用語について復習し、知識の定着を行う
14	まとめとテスト	貿易取引の要点と用語を含むテストを行う
15	フィードバック	結果の説明

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	「貿易のしくみ」
参考文献・資料等	必要に応じて、コピー等を配布します。
備考	グループ学習が多いので積極的な参加が必要

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	世界情勢 I	（ NGB24I ）	
講義名（コード）	世界情勢 I D	（ NGB24ID ）	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際的な理解度を高め、異文化に対する知識を習得し、国際感覚を身に着けることを目指す
全体の内容と概要	世界の国々の歴史や現状をテキストに基づき学ぶとともに、世界的な課題提起「SDG s」の進捗状況などを、グループワーク等を活用して学ぶ
授業時間外の学修	様々な国の方との交流を通じ相互理解を深める
履修上の注意事項等	各授業の最後に確認テストを実施する予定

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率 70%以上で期末試験の受験対象者とし、授業への参加態度や学習意欲も評価の対象とする		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション 学習意図が理解できる	・ 本授業の意図と習得する知識・現段階における知識レベルの把握 ・ SDGs の定義と取り組み背景などを学ぶ
2	SDGsの現状を理解できる	・ SDGs17項目の世界的達成率と主要国の現状 【セルフワーク】出身国の達成状況について調べてみる
3	SDGsの本質を理解できる① (日本の達成率と世界の事例)	・ SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「貧困をなくす」「飢餓をゼロに」
4	SDGsの本質を理解できる② (日本の達成率と世界の事例)	・ SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」
5	SDGsの本質を理解できる③ (日本の達成率と世界の事例)	・ SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「ジェンダー平等を実現しよう」「安全な水とトイレを世界中に」
6	SDGsの本質を理解できる④ (日本の達成率と世界の事例)	・ SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「働きがいも経済成長も」
7	SDGsの本質を理解できる⑤ (日本の達成率と世界の事例)	・ SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「産業と技術革新の基盤を作ろう」「人や国の不平等をなくそう」
8	SDGsの本質を理解できる⑥ (日本の達成率と世界の事例)	・ SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「住み続けられるまちづくりを」「つくる責任使う責任」
9	SDGsの本質を理解できる⑦ (日本の達成率と世界の事例)	・ SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「気候変動に具体的な対策を」
10	SDGsの本質を理解できる⑧ (日本の達成率と世界の事例)	・ SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさも学ぼう」
11	SDGsの本質を理解できる⑨ (日本の達成率と世界の事例)	・ SDGs17項目の現状を学び、問題点を見つけ出す 【重点項目】「平和と公平をすべての人に」「パートナーシップで目標を達成しよう」
12	身近な解決策を検討し 発表することができる①	・ SDGs17項目の中から興味を持った項目をピックアップする ・ その項目について身近な解決策を見つけてレポートする
13	身近な解決策を検討し 発表することができる②	・ SDGs17項目の中から興味を持った項目をピックアップする ・ その項目について身近な解決策を見つけてレポートする
14	前期末テスト	前期授業で学んだ内容の確認テスト（筆記・論述）
15	フィードバック・まとめ	テスト結果のフィードバックと回答解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	「地図でよくわかる世界の国大百科」「こどもSDGs達成レポート」
参考文献・資料等	なし
備考	理解を深めるための独自資料を、内容に応じ用意

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスプレゼンテーション I		（ NKT24H ）
講義名（コード）	ビジネスプレゼンテーション I B		（ NKT24HC ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自分の考えやアイデアをしっかりと聞き手に伝えることができる。わかりやすい資料を作成できる。聞く姿勢ができていく（発表内容が理解でき、感想や意見を述べるができる。）
全体の内容と概要	正しい日本語を使ってわかりやすい説明を行えるように話し方の練習をする。聞き手の心を動かすようなプレゼンテーションになるように何度も練習する。
授業時間外の学修	発表練習を何度も行う。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	プレゼンテーションとは何かがわかる	自己紹介、プレゼンテーションとは何か、どんな場面で使用するかを学ぶ。
2	プレゼンテーションを構成できる	プレゼンにおける大切な要素について理解する。聞いている人の心理を理解してプレゼンテーションを成功に導くにはどうすればよいのかを学ぶ。
3	人前で簡単なスピーチができるようになる	簡単なテーマに沿ったスピーチを作成する。
4	人前でスピーチができるようになる	簡単なテーマに沿ったスピーチをクラスの中で発表する。
5	正しいマナーで発表し、聞くことができる	発表のマナー、聞く人のマナー、（良く聞き、質問、感想を考える）、3分プレゼンテーション発表。
6	自国の特徴や産業についてわかりやすく説明することができる	自国の特徴や産業について、初めて聞く人にわかりやすいようにまとめ、説明の構成を作成する
7	自国の特徴や産業についてPPTで説明資料を作成できる。	構成に沿って、パワーポイントを作成する。わかりやすく説明できるように練習をする。
8	自国の特徴や産業についてPPTを使い発表を行うことができる。	発表の練習をする（クラスメイトと聞き合う）
9	プレゼンテーションの発表や資料について自己評価ができる	発表の伝え方、説明資料の構成の作り方など振り返る。
10	理想的なプレゼンテーション資料の「あり方」が理解できる	プレゼンテーション資料がどのようなデザインであるべきなのか、NGプレゼンテーション資料、OKプレゼンテーション資料等比較しながら学ぶ。
11	日本の企業を調査しプレゼンテーションの構成を作成できる	興味のある日本企業について調査する。プレゼンテーションの構成を組み立ててストーリーを作成する。
12	日本の企業について構成に従ってパワーポイントを作成できる	興味のある日本の企業について、パワーポイントを作成する。
13	日本の企業について作成したパワーポイントをわかりやすく発表できる	クラスメイトと発表し合う。クラスメイトお互いにフィードバックし合う。
14	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 クラスメイトから評価をもらう
15	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 クラスメイトから評価をもらう

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスプレゼンテーション I		（ NKT24H ）
講義名（コード）	ビジネスプレゼンテーション I D		（ NKT24HE ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	堀内 美穂	時間数	30
成績評価教員	堀内 美穂	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	人前で自分の考え、主張を述べるができる。わかりやすく言葉で人に伝える技術は、将来どのような業種の仕事についても役に立つ。
全体の内容と概要	あるテーマについて原稿を作成し何度も発表練習をする。ただの作文ではなく、聞いている人にわかりやすく、心に響くようなスピーチになるよう話し方の練習もする。
授業時間外の学修	発表練習を何度も行う。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	スピーチとは何かがわかる	スピーチが行われる場面、目的を考える。 Youtubeでスピーチのビデオを見ながらコツを学ぶ。
2	スピーチ内容の構成が理解できる	スピーチ内容の構成を学ぶ。テーマを選んでスピーチの原稿を作成する。
3	スピーチ原稿を作成できる。	テーマに沿ったスピーチ原稿を作成する。
4	人前でスピーチができるようになる	簡単なテーマに沿ったスピーチをクラスの中で発表する。
5	最近のニュースについて自分の意見をスピーチにする事ができる。	気になるニュースを調べ自分の意見をまとめる。
6	最近のニュースについて自分の意見をスピーチにする事ができる。	気になるニュースを調べ自分の意見をまとめる。
7	最近のニュースについて自分の意見をスピーチにする事ができる。	気になるニュースについて自分の意見をまとめたスピーチを行う。
8	分かりやすい発表説明文を作成できる。	それぞれが興味があるテーマの写真を集め、 その写真についての説明文を作成する。
9	分かりやすい発表説明文を作成できる。	それぞれが興味があるテーマの写真を集め、 その写真についての説明文を作成する。
10	写真を使った発表を行うことができる。	写真を見せながら短い発表を行う。クラスメートに評価をもらう。
11	国際問題についての発表を行うことができる。	自分の興味のある現在起こっている国際問題について調べ、 現状・問題の原因についてまとめる。
12	国際問題についての発表を行うことができる。	問題についてのデータを検索し、グラフ等を使ってわかりやすく PPTにまとめる。自分の意見を交えた問題の解決法を考える。
13	国際問題についての発表を行うことができる。	国際問題についての発表練習を行う。
14	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 評価
15	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 評価

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス資格対策Ⅰ		（ NGB24N ）
講義名（コード）	ビジネス資格対策ⅠA		（ NGB24NA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	榊原 倫代	時間数	30
成績評価教員	榊原 倫代	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	サービス業で必要なおもてなしの力を身につけ、即戦力の人材を育てる。
全体の内容と概要	おもてなしについて学び、お客さまのことを考えた接客ができるようになる。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	「おもてなしの心」とは何か、 少し理解できるようになる	授業の進め方についてオリエンテーション ＜第1課＞これまでに感動したサービスや印象に残っている接客を思い出してまとめる
2	「おもてなしの心」とは何か、 少し理解できるようになる	＜第1課＞ 自国と日本の接客を比べ、「おもてなし」について考える。
3	会釈、敬礼、最敬礼が できるようになる	＜第1課＞ 分離礼の実践 サービス業でよく使う表現と合わせて練習する。
4	第一印象を良くする身だしなみを 整えることができる	＜第1課＞ の復習(まとめ問題) ＜第2課＞ 「おしやれ」と「身だしなみ」について考える。
5	良い人間関係を構築するための あいさつができる	＜第2課＞ サービス業における「表情」について考える。 物の指し示しと受け渡しの方法を知り練習する。
6	手で指し示しながら 誘導することができる	＜第2課＞ の復習(まとめ問題) ＜第3課＞ 実際の場面を想像して、お客さまを誘導する練習する。
7	方向を指し示しながら 誘導することができる	ご案内の方法を学び、 お客さまをホテルのフロントから客室まで案内することを想定して練習する
8	お客さまの要望に対して、確認して から提案ができるようになる	＜第3課＞ の復習(まとめ問題) ＜第4課＞ サービス業における「確認」の方法を学ぶ。
9	お客さまの気持ちを察し、一歩 進んだ対応ができるようになる	クッション言葉について学び、 お客さまが求めていることを察して提案する練習をする。
10	お客さまが安心できる対応をす ることができる	＜第4課＞ の復習(まとめ問題) ＜第5課＞ お客さまの心理を考え、対応する練習をする。①
11	さあぎまな状況に合わせて、 一番良い方法で迅速に対応できる	お客さまの心理を考え、対応する練習をする。②
12	前期で学習したことを確認し、 実践できる。	＜第5課＞ の復習(まとめ問題) 第1課～第5課の復習をし、テストに向けて練習する。
13	前期で学習したことを確認し、 実践できる。	実技テスト①
14	前期で学習したことを確認し、 実践できる。	実技テスト②
15	まとめと解説	実技テスト③ / フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	おもてなしの日本語
参考文献・資料等	BJTテスト模試と対策 マナー＆プロトコールの基礎知識
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語コミュニケーションⅢ		（ NKT24J ）
講義名（コード）	日本語コミュニケーションⅢ A		（ NKT24JA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	細かなニュアンスを理解したうえで、場面に応じて文法、語彙を使い分け、 コミュニケーションを図ることができるようになる
全体の内容と概要	N1の読解、聴解の対策をしていく
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	「説明書き」が理解できる 「準備しよう」が理解できる 1	読解：ABCギフト券 聴解：発音に関する聞き取り
2	「表・リスト」が理解できる 「準備しよう」が理解できる 2	読解：例題 2 0、練習 5 0 聴解：文法に関する聞き取り①
3	実践問題が理解できる 1 「準備しよう」が理解できる 3	読解：中文理解 例題 2 1 聴解：文法に関する聞き取り②
4	実践問題が理解できる 2 「準備しよう」が理解できる 4	読解：中文理解 練習 5 1、5 2 聴解：会話表現
5	実践問題が理解できる 3 「準備しよう」が理解できる 5	読解：中文理解 練習 5 3、5 4 聴解：まとめ問題
6	実践問題が理解できる 4 問題のパターンに慣れよう 1	読解：内容理解（長文）例題 2 2 聴解：どんな返事をしますかー即時応答
7	実践問題が理解できる 5 問題のパターンに慣れよう 2	読解：内容理解（長文）例題 2 3 聴解：このあと何をしますかー課題理解
8	実践問題が理解できる 6 問題のパターンに慣れよう 3	読解：内容理解（長文）練習 5 5 聴解：どうしてですかーポイント理解
9	実践問題が理解できる 7 問題のパターンに慣れよう 4	読解：主張理解（長文）例題 2 4 聴解：どんな内容ですかー概要理解
10	実践問題が理解できる 8 問題のパターンに慣れよう 5	読解：主張理解（長文）練習 5 7 聴解：どうすることにしますかー統合理解①
11	実践問題が理解できる 9 問題のパターンに慣れよう 6	読解：主張理解（長文）練習 5 8 聴解：どれにしますかー統合理解②
12	実践問題が理解できる 1 0 問題のパターンに慣れよう 7	読解：主張理解（長文）練習 5 9 聴解：まとめ問題
13	実践問題が理解できる 1 1 いろいろなタイプの話聞こう 1	読解：統合理解 例題 2 5 聴解：情報を聞こう
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	完全マスターN1読解 日本語総まとめN1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語資格対策Ⅲ		（ NKT24L ）
講義名（コード）	日本語資格対策Ⅲ A		（ NKT24LA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	相手の心情を理解し、適切な言い回しをすることで、 コミュニケーション力を高めるとができる
全体の内容と概要	日本語能力試験N1の文法と語彙を学んでいく
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	送別会などで、関係者に対し、お礼や抱負含むを改まったスピーチができる 1	文法：～ところ(を) ～の至り、～をもって 語彙：文脈規定 1
2	送別会などで、関係者に対し、お礼や抱負含むを改まったスピーチができる 2	文法：～こととて ～にたえねい ～たる 語彙：文脈規定 2
3	送別会などで、関係者に対し、お礼や抱負含むを改まったスピーチができる 3	文法：～限りだ、CHECK、まとめの問題 語彙：文脈規定 3
4	仕事上の話題について、批判的な意見を交えて社内で話ができる 1	文法：～じゃあるまいし、～んばかり、～たら/～ばそれまでだ 語彙：文脈規定 4
5	仕事上の話題について、批判的な意見を交えて社内で話ができる 2	文法：～ものを、～ときたら、たところで 語彙：文脈規定 5
6	仕事上の話題について、批判的な意見を交えて社内で話ができる 3	文法：～（よ）うが、～（よ）うが～まいが、～なら～で 語彙：文脈規定 6
7	仕事上の話題について、批判的な意見を交えて社内で話ができる 4	文法：～にすれば、～までのことだ、CHECK 語彙：文脈規定 7
8	仕事の結果について振り返りながら社内で話ができる 1	文法：～といったらない、～（よ）うにも～できない、～まくる 語彙：文脈規定 8
9	仕事の結果について振り返りながら社内で話ができる 2	文法：～にしたところで、～てみせる、CHECK、まとめの問題 語彙：文脈規定 10
10	ファンタジー小説を読んだ、やや古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解することができる	文法：～つ～つ、～ともなく、～べく、 語彙：文脈規定 11
11	ファンタジー小説を読んだ、やや古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解することができる 2	文法：～からというもの、～ながらに、～までのことだ、 語彙：文脈規定 12
12	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解することができる 3	文法：～をものともせず、～かたわら、CHECK、 語彙：文脈規定 13
13	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物の心情が理解できる 1	文法：～めく、～やいなや、～ごとき、 語彙：文脈規定 14
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	文字語彙：ドリル&ドリルN1 文法：TRY N1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	会計財務 I		（ NGB24K ）
講義名（コード）	会計財務 I A		（ NGB24KA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	1学年で学習した簿記の基礎知識をふまえて、日商簿記初級・3級検定受験を目標に企業の取引のしくみ、記帳のしくみを学習していきます
全体の内容と概要	テキストに沿って1つ1つの会計処理方法を覚え、模擬問題を練習し検定対策をしていきます
授業時間外の学修	新しい勘定科目や処理の方法、計算問題が出てきます しっかり復習して覚えていきましょう
履修上の注意事項等	検定試験はいつでも受験が出来ますので受験日を考えて学習してってください

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	商品売上の基礎復習 クレジット売掛金を理解する	1 学年期末テスト内容復習（仕入および売上の返品・発送費仕訳） クレジット売掛金
2	前払金・前受金の処理ができる	商品売上の処理② 前払金・前受金
3	手形取引・電子記録債権について理解する	手形とは何か・手形の振出・支払・手形の受入、取立 電子記録債権・債務について
4	債権と債務のちがいを知り 処理方法を理解する	その他の債権と債務① 貸付金と借入金、未収入金と未払金
5	債権と債務のちがいを知り 処理方法を理解する	その他の債権と債務② 立替金・預り金・仮払金・仮受金
6	有形固定資産の処理ができる	有形固定資産の取得・売却
7	減価償却について理解する	減価償却とは何か・減価償却費の記帳方法
8	純資産（資本）の仕訳を 理解する	純資産（資本）の増加・減少、引出金の処理
9	検定問題練習により 本試験の問題の形式を理解する	本試験シミュレーション問題 第1回（抜粋）
10	検定問題練習により 本試験の問題の形式を理解する	本試験シミュレーション問題 第2回（抜粋）
11	検定問題練習により 本試験の問題の形式を理解する	本試験シミュレーション問題 第3回（抜粋）
12	検定問題練習により 本試験の問題の形式を理解する	期末テスト範囲に合わせた本試験シミュレーション問題練習
13	検定問題練習により 本試験の問題の形式を理解する	期末テスト範囲に合わせた本試験シミュレーション問題練習
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	留学生のための簿記初級ワークブック
参考文献・資料等	他テキスト、問題集よりの抜粋プリント 簿記初級サンプル問題 操作体験版なども使いパソコンで操作する試験に慣れていきます
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	検定対策Ⅲ		（ NGB24P ）
講義名（コード）	検定対策ⅢC		（ NGB24PC ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	宮原 祥子	時間数	30
成績評価教員	宮原 祥子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	1 学年時、学習したWordの機能の活用を学習し資格を取得する
全体の内容と概要	日商PC検定BASICレベル受験対策を中心に学習していきます
授業時間外の学修	資格試験を受験する場合は、授業内容のほかにプログラムなどで繰り返し練習してください
履修上の注意事項等	資格試験の受験はいつでも可能ですので、受験日を意識して学習してください 授業はBASICレベルを中心ですが3級受験希望者には3級の対策をします

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	ビジネス文書の基礎知識を理解	ビジネス文書とは・社内文書、社外文書の基本とちがい 資格試験概要紹介・自分の受験するレベルを決める
2	ビジネス文書作成の基本を理解	作成する文書の確認・文章の入力・編集・文字の配置、装飾・保存
3	表を活用したビジネス文書が作成できるようになる	表の作成・レイアウト変更・文字の配置・書式設定
4	図形を活用した文書作成ができるようになる	図形の作成・図形に文字を入力・スタイル変更
5	あいさつ文問題対策 基本となる日本語力をつける	模擬試験 問題 1 ショールーム開設のご案内・避難訓練実施のお知らせ
6	表問題対策 読み取りやすい表の作成を理解	模擬試験 問題 2 社内運動会開催のお知らせ・ワイン試飲会開催のご案内
7	オブジェクト問題対策 目的に合わせた図形の活用できる	模擬試験 問題 3 通信教育制度のご案内・新商品キャンペーンについて
8	模擬試験プログラムを利用した 検定試験練習 (FOM出版問題集使用) 受験できる学生は随時検定受験 プログラムで練習することにより 実際の試験形式の手順を習得する	模擬試験プログラム 模擬 1 配置の設定・文字書式の変更, 設定・定型文の入力・段落番号の設定 ・保存, 表の配置設定・図形の装飾
9		模擬試験プログラム 模擬 2 文字の装飾・配置の設定・文書の編集・ページ設定・保存 表の作成・段落罫線の作成・図形の装飾・インデント設定
10		
11		
12		模擬試験プログラム 模擬 3 配置の設定・文字書式の変更, 設定・段落番号の設定・保存 ・インデント設定, 表の編集・図形の装飾, 配置, 文字の入力
13		
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	日商 P C 検定BASIC公式テキスト・問題集 文書作成 (貸出)
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	資格試験対策として問題集・模擬試験プログラムを利用

学校法人ISI学園 専門学校長野ビジネス外語カレッジ

2025年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスコンピューティングⅢ		（ NKT24E ）
講義名（コード）	ビジネスコンピューティングⅢC		（ NKT24EC ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	宮原 祥子	時間数	30
成績評価教員	宮原 祥子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	表計算ソフトExcelの基本操作・機能を習得し、実務への活用方法を学習する
全体の内容と概要	テキストに沿って様々な形式の課題を作成し、基本操作を身につける 検定試験を目標に、操作・知識を学習していく
授業時間外の学修	操作環境がない生徒がほとんどだと思いますので、メニューの操作方法、文字変換、数式の入力など テキストや授業時配布されたプリントで復習してください
履修上の注意事項等	検定試験はいつでも学校で受験できます 就職活動に合わせて、資格を取得する計画を立てましょう

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Excelの基本操作を覚える 合計・平均の計算ができる	Excelの基本（新規作成・基本用語・入力・保存） 数式の入力方法
2	効率の良いデータの入力方法 SUM関数を理解する	データ入力と関数（SUM）
3	入力したデータの編集方法を 理解できる	表作成（書式設定、表示形式、配置、罫線、挿入・削除、上書き保存）
4	縦棒グラフが作成できる	グラフ作成（縦棒グラフの作成・編集）
5	オートフィルの活用 AVERAGE関数を理解する	オートフィル練習（テキストにないもの） 基本的なワークシートの編集（復習とAVERAGE関数）
6	表作成に必要な機能を復習する	ワークシートの書式設定（表作成復習）
7	縦棒グラフ作成復習 円グラフを作成できる	グラフ作成（縦棒グラフ・円グラフの作成）
8	グラフ作成の機能の応用機能を 理解する	グラフの設定の変更（系列・種類・軸ラベル・複合グラフ作成）
9	実習問題を作成してExcelの 活用方法を理解する	表作成とグラフ作成 実習問題（縦棒グラフ・円グラフ） 伸び率の計算
10	実習問題を作成してExcelの 活用方法を理解する	表作成とグラフ作成 実習問題（縦棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ） 売上金額の計算
11	実習問題を作成してExcelの 活用方法を理解する	表作成とグラフ作成 実習問題 （折れ線グラフ・レーダーチャートグラフ）、SUM関数の応用方法
12	実習問題を作成してExcelの 活用方法を理解する	テスト範囲に合わせた練習問題 1
13	実習問題を作成してExcelの 活用方法を理解する	テスト範囲に合わせた練習問題 2
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	30時間でマスターWord&Excel2021・留学生のためのパソコン入門（貸出）
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	レベルに応じた資格試験の練習問題

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスコンピューティングⅢ		（ NKT24E ）
講義名（コード）	ビジネスコンピューティングⅢA		（ NKT24EA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	東京コンピューター（株）、東京精電（株） 歴任	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	1 学年で学習したExcelの基本操作をさらに深め、実務で活用できる機能を習得し 資格取得を目指します
全体の内容と概要	テキストに沿って様々な形式の課題を作成し、活用方法を身につける 検定試験を目標に、操作・知識を学習していく
授業時間外の学修	資格試験受験に向けて、プログラムや模擬問題でくり返し練習してください
履修上の注意事項等	検定試験はいつでも学校で受験できます 就職活動に合わせて、資格を取得する計画を立てましょう

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず 単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	ROUND・UP・DOWN関数で端数処理の意味を理解できる	ROUND・ROUNDUP・ROUNDDOWN関数のちがいと桁数の設定
2	条件判定と比較演算子の意味を理解できる	IF関数① IF関数を使った条件判定の入力の仕方、比較演算子の意味と使い方
3	関数のネスト方法を理解できる	IF関数② 3つ以上の条件判定、関数のネストの入力方法
4	VLOOKUP関数を活用した効率的な処理方法を理解できる	VLOOKUP関数① VLOOKUP関数の構造と使用方法
5	表検索入力の方法を理解できる	VLOOKUP関数② VLOOKUP関数とHLOOKUP関数のちがい
6	練習問題により活用方法を理解する	関数練習問題（ここまで学習した関数の練習問題）
7	並べ替えとフィルターデータの検索と抽出を理解できる	並べ替えの設定方法・フィルターの設定と抽出
8	条件付き書式とテーブル機能視覚的なデータの把握と管理できる	カラースケール・データバー・アイコンセット他の条件付き書式の設定 テーブルの作成と機能の利用方法
9	ピボットテーブルの作成機能を使ったデータ集計ができる	ピボットテーブルの作成・データの集計の変更方法
10	日商PC検定Basicプログラムを操作できるようになる	日商PC検定 Basicプログラム練習 問題 1 基本の計算式
11	日商PC検定Basicプログラムを操作できるようになる	日商PC検定 Basicプログラム練習 問題 2 グラフの編集
12	日商PC検定Basicプログラムを操作できるようになる	日商PC検定 Basicプログラム練習 問題 3 データベース分析
13	プログラムで練習することにより実際の試験形式の手順を習得する	模擬試験プログラムを利用した検定試験練習 プログラムで練習することにより実際の試験形式の手順を習得する
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	30時間でマスターWord&Excel2021 日商PC検定試験公式テキスト&問題集 3級（貸出）・BASIC（貸出）
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント 資格試験対策として日商PC検定の模擬試験プログラムを利用
備考	担当教員はIT業界での実務経験を活かし、 Microsoft Office製品各種の操作を体系的に指導する

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス英語Ⅲ		（ NKT24A ）
講義名（コード）	ビジネス英語ⅢB		（ NKT24AB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ビジネス英語特有の表現、語彙を習得し、ビジネスシーンで使える英語を身につける。
全体の内容と概要	リスニング、特にスピーキングの練習を中心にコミュニケーション能力の向上を図る。
授業時間外の学修	新しい語彙・フレーズを復習し、会話文の音読練習をする。
履修上の注意事項等	クラスアクティビティに積極的に参加することが求められます。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	初対面の同僚に自己紹介ができるようになる	実際の場面を想定しながらペアで練習する。
2	ビジネスミーティングで自己紹介ができるようになる	実際の場面を想定しながらペアで練習する。
3	ゲストを同僚に紹介することができるようになる	実際の場面を想定しながらペアで練習する。
4	1～3回【挨拶】の復習	様々な場面を想定して練習する。
5	留守電にメッセージを残すことができるようになる	留守電にメッセージを残す方法を練習する。
6	電話で伝言を残すことができるようになる	電話で伝言を残す方法を練習する。
7	同僚に伝言を伝えることができるようになる	同僚に伝言を伝える方法を練習する。 様々な場面を想定して適する時制を使えるようにする。
8	5～7回【電話】の復習	様々な場面を想定して練習する。
9	空港でチェックインができるようになる	空港でチェックインする方法を練習する。
10	入国審査や税関を通過できるようになる	入国審査や税関を通過する場面を練習する。
11	9～10回【海外出張編】の復習	様々な場面を想定して練習する。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	新装版 即戦力がつくビジネス英会話
参考文献・資料等	英会話フレーズ大特訓ビジネス編、ゼロからスタートしごとの英会話、 本当に必要な社内英語、Business as Usual
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	TOEIC対策Ⅲ		（ NKT24C ）
講義名（コード）	TOEIC対策ⅢB		（ NKT24CB ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	TOEIC600点をを目指す。
全体の内容と概要	TOEICテストの概要を理解し、文法の基礎を復習しながら、確実に問題を解けるようにする。
授業時間外の学修	新しい語彙やフレーズを復習し、会話文などの音読練習を行う。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	TOEICテストの概要を理解できるようになる	TOEICテストの構成・概要を知る。
2	Part1の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart1の解き方を学ぶ。
3	Part2の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart2の解き方を学ぶ。
4	Part2+3の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart2+3の解き方を学ぶ。
5	Part3の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart3の解き方を学ぶ。
6	Part4の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart4の解き方を学ぶ。
7	Part4+5の解き方を理解できるようになる	リスニングパートであるPart4+5の解き方を学ぶ。
8	Part5の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart5の解き方を学ぶ。
9	Part6の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart6の解き方を学ぶ。
10	Part6+7の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart6+7の解き方を学ぶ。
11	Part7の解き方を理解できるようになる	リーディングパートであるPart7の解き方を学ぶ。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	世界一分かりやすいTOEIC 総合模試600点突破レベル、 新装版TOEIC L&R TEST 出る単特急金の1000問
参考文献・資料等	はじめて受けるTOEIC L&Rテスト全パート完全攻略
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス翻訳 I		（ NKT24N ）
講義名（コード）	ビジネス翻訳 I A		（ NKT24NA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	秋学期にはビジネスメールなどの翻訳ができるようになることを目指し、今学期はそのために必要な基本文法の総復習を行うとともに、ビジネス英語特有の表現や語彙を習得する。
全体の内容と概要	今学期は基本文法の総復習を行うとともに、ビジネス英語特有の表現や語彙を習得する。
授業時間外の学修	ビジネス英語特有の表現や語彙の復習をする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	中学英語の総復習	中学英語の復習とビジネス用語を身につける。
2	中学英語の総復習	中学英語の復習とビジネス用語を身につける。
3	時制が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
4	助動詞が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
5	仮定法が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
6	受動態が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
7	不定詞が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
8	動名詞が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
9	分詞が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
10	準動詞が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
11	関係詞が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
12	比較が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
13	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	肘井学のゼロから英文法が面白いほどわかる本
参考文献・資料等	入門ビジネス英語、書けるEメール・ライティング、英文ビジネスEメール文例集
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	キャリアデザインⅢ		（ NKT24P ）
講義名（コード）	キャリアデザインⅢA		（ NKT24PA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース/グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	岩岡 夏子	時間数	30
成績評価教員	岩岡 夏子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会＆面接会参加（WEB含む）
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容	
1	授業内容の理解 進路手帳活用方法理解	【オリエンテーション】講師紹介 前期の内容について説明	【演習】進路手帳記入活用
2	就職情報の入手方法と活用について 理解する	【企業情報収集方法】キャリアスUCエン トリー、マイナビ活用方法説明	【演習】キャリアスUCエントリー、マイ ナビエントリーと活用
3	就職活動スケジュールの 理解就職活動計画作成	就職活動スケジュール説明 就職に必要な書類、スキル、準備物	【演習】就職活動スケジュール作成（シート記入）就職に必 要な書類、スキル、準備物チェックシート記入
4	自己紹介ができる	【自己理解】自分の長所、短所、内的・ 外的キャリアを考える方法	【演習】自己紹介文作成と発表
5	他人の紹介ができる	【他者理解～自己理解】他者の良い所を見出 し、自己理解、自己PR書作成に生かす。	【演習】自己紹介文の修正と発表
6	自己PR書が書ける	【自己PR書とは】自己紹介、他者から見 た自分の長所から自己PR書に落とし込む	【演習】自己PR書作成 200字～400字程度、提出
7	雇用状況、企業について理解する	【企業を選ぶ視点】企業を選ぶ6つの視 点を知り、志望する企業を選択	【演習】企業研究 進路手帳ワークブッ ク利用
8	仕事（職種）について理解を深める	【仕事理解】どんな仕事があるか？どん な仕事に興味があるか？どんな会社か？	【演習】興味がる仕事、会社の研究シー ト作成（進路手帳）
9	面接の基本知識を理解する	【面接に行くためには】準備とマナー、 ポイントについて	【演習】面接に向けた行動計画と準備、 行動計画表作成（進路手帳）
10	面接の受け方、マナーを理解する （1）	【面接について】基本スキルの確認 集団面接、個別面接、グループディスカッション	【演習】面接演習 スーツ着用学生同士
11	面接の受け方、マナーを理解する （2）	【面接】悪い面接マナー説明 服装、挨拶、言葉遣い、姿勢	【演習】面接演習 スーツ着用学生同士
12	面接のテクニックの習得	【面接】良い面接マナーと悪い面接マ ナー復習 評価項目について	【演習】面接演習 スーツ着用 学生同 士で評価、講評する
13	インターンシップについて理解する	【インターンシップ】企業選定、企業へ の応募、連絡方法について	【演習】インターンシップ計画表作成 （進路手帳）
14	まとめと対策	【テスト】記述式	【演習】挨拶状作成（進路手帳）
15	まとめと対策	【テスト F.B】	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	留学生：『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク） 日本人：就職内定基本テキスト（日本能率協会マネジメントセンター）
参考文献・資料等	なし
備考	担当教員はキャリアコンサルタントとしての実務経験を活かし、就職内定へ向けての実践的なカリキュラム運営を行う

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	キャリアデザインⅢ		（ NKT24P ）
講義名（コード）	キャリアデザインⅢD		（ NKT24PD ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	若林 繁実	時間数	30
成績評価教員	若林 繁実	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体的内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会＆面接会参加（WEB含む）
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容	
1	授業内容の理解 進路手帳活用方法理解	【オリエンテーション】講師紹介 前期の内容について説明	【演習】進路手帳記入活用
2	就職情報の入手方法と活用について 理解する	【企業情報収集方法】キャリアスUCエン トリー、マイナビ活用方法説明	【演習】キャリアスUCエントリー、マイ ナビエントリーと活用
3	就職活動スケジュールの理解就職活 動計画作成	就職活動スケジュール説明 就職に必要な書類、スキル、準備物	【演習】就職活動スケジュール作成（シート記 入）就職に必要な書類、スキル、準備物チェッ クシート記入
4	自己紹介ができる	【自己理解】自分の長所、短所、内的・ 外的キャリアを考える方法	【演習】自己紹介文作成と発表
5	他人の紹介ができる	【他者理解～自己理解】他者の良い所を見出 し、自己理解、自己PR書作成に生かす。	【演習】自己紹介文の修正と発表
6	自己PR書が書ける	【自己PR書とは】自己紹介、他者から見 た自分の長所から自己PR書に落とし込む	【演習】自己PR書作成 200字～400字程度、提出
7	雇用状況、企業について理解する	【企業を選ぶ視点】企業を選ぶ6つの視 点を知り、志望する企業を選択	【演習】企業研究 進路手帳ワークブッ ク利用
8	仕事（職種）について理解を深める	【仕事理解】どんな仕事があるか？どん な仕事に興味があるか？どんな会社か？	【演習】興味がる仕事、会社の研究シー ト作成（進路手帳）
9	面接の基本知識を理解する	【面接に行くためには】準備とマナー、 ポイントについて	【演習】面接に向けた行動計画と準備、 行動計画表作成（進路手帳）
10	面接の受け方、マナーを理解する （1）	【面接について】基本スキルの確認 集団面接、個別面接、グループディスカッション	【演習】面接演習 スーツ着用 学生同士
11	面接の受け方、マナーを理解する （2）	【面接】悪い面接マナー説明 服装、挨拶、言葉遣い、姿勢	【演習】面接演習 スーツ着用 学生同士
12	面接のテクニックの習得	【面接】良い面接マナーと悪い面接マナー復習 評価項目について	【演習】面接演習 スーツ着用 学生同士で評価、講評する
13	インターンシップについて理解する	【インターンシップ】企業選定、企業へ の応募、連絡方法について	【演習】インターンシップ計画表作成 （進路手帳）
14	まとめと対策	【テスト】記述式	【演習】挨拶状作成（進路手帳）
15	まとめと対策	【テスト F.B】	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	留学生：『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク） 日本人：就職内定基本テキスト（日本能率協会マネジメントセンター）
参考文献・資料等	なし
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	Webマーケティング実践Ⅲ		（ NKT24S ）
講義名（コード）	Webマーケティング実践ⅢA		（ NKT24SA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	敦賀 由美子	時間数	30
成績評価教員	敦賀 由美子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	デザインツール「CANVA」を使用し、デザインの基礎から応用まで学び、媒体に合わせて視覚的に魅力的で効果的なデザインを作成するスキルを身につける。
全体の内容と概要	CANVAの基本操作とデザイン原則を学ぶ。レイアウト、配色、タイポグラフィなどの基礎を習得し、プレゼンテーション・SNS投稿画像やポスターなどの制作に取り組む。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	CANVAアカウント取得・共有方法確認、Webマーケティングの説明、SNS利用状況の確認
2	基本操作の習得	テンプレートの使用・画像加工・素材の挿入・ページの追加などの基本操作を学び、自己紹介ページを作成
3	基本操作の習得	テンプレートの使用・画像加工・素材の挿入・ページの追加などの基本操作を学び、自己紹介ページを作成
4	基本操作の習得	自己紹介ページのプレゼンテーション
5	デザインの基礎の習得	色・タイポグラフィ・レイアウトの基本を学び、オリジナルロゴ作成
6	デザインの基礎の習得	色・タイポグラフィ・レイアウトの基本を学び、オリジナルロゴ作成
7	テキストデザイン・文字組みの基本の習得	パンフレットの制作
8	テキストデザイン・文字組みの基本の習得	パンフレットの制作
9	テキストデザイン・文字組みの基本の習得	パンフレットの制作
10	効果的なキャプション・ハッシュタグの作成スキル習得	SNS投稿画像とキャプション作成
11	効果的なキャプション・ハッシュタグの作成スキル習得	SNS投稿画像とキャプション作成
12	効果的なキャプション・ハッシュタグの作成スキル習得	SNS投稿画像とキャプション作成
13	期末テスト	成果物制作
14	期末テスト	成果物制作・提出
15	フィードバック	テスト内容に関するフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Canva 基本&デザインTIPS！ 無限に役立つ使いこなしワザ152 技術評論社
参考文献・資料等	①世界一やさしいCanva 無料で使えるデザイン作成ツールガイド インプレス ②ちなみにそれ、Canvaでできます！ インプレス
備考	